令和7年度 修成学園 自己点検・自己評価報告書【評価編】

1. 自己点検・評価の実施体制と評価基準

修成学園では、教育の質の保証と継続的な改善（PDCAサイクルの確立）を目的として、全教職員が参加する体制のもとで毎年度の自己点検・自己評価を実施しています。

(1) 評価の体制およびプロセス

全学評価： 理事長、学校長、副校長、学生相談室長、各学科長、事務局長等で構成される自己点検・評価委員会を中心として、学園全体の中長期計画および年間事業方針に基づき「大項目1〜6」の点検を実施。

学科別評価： 各学科長を中心に、学科所属の全専任教員・担当教員が協働し、カリキュラム実施・成績評価・企業連携・資格および就職実績等を客観的なエビデンスに基づいて点検。

外部検証： 点検・評価の結果は「教育課程編成委員会」および「学校関係者評価委員会」へ報告し、業界有識者や企業実務者からの第三者意見を反映して最終評価を確定。

(2) 評価尺度（3段階評価）

3（良）： 計画・目標を十分に達成しており、顕著な成果や先進的な取り組みが見られる。

2（普）： 計画・目標を概ね達成しているが、一部に課題があり改善策の実行が求められる。

1（悪）： 計画・目標の達成が不十分であり、組織的かつ早急な改善が必要である。

2. 全学評価（大項目別点検・評価結果）

大項目・担当	点検内容（中項目）	評価	令和7年度の取組実績とエビデンス	課題と次年度に向けた改善策（PDCA）
大項目1：教育理念・目的・目標	建学の精神に基づく教育理念・目的、APの設定と周知	3	建学の精神および学園ビジョン『S Innovation 120・2030』に基づき、事業方針「『技術』と『熱意』」を掲げて各広報媒体やガイダンスを通じ多様な主体へ周知徹底を図った。 （エビデンス：令和7年度事業方針資料、学園ビジョン策定資料、学校案内、募集要項、公式ウェブサイト（建学の精神・教育理念ページ））	【課題】学生が理念を「自分事」として捉え、自らの学習目標に結びつける意識付けに定着の余地がある。 【改善策】令和8年度事業方針に基づき部署間連携を強化し、入学前から卒業に至る支援を体系化する。
	最新動向や技術革新、地域ニーズの教育目的への反映	2	1人1台PC環境を基盤とするDX・AI教育、「修成教育研究所」を通じたリカレント教育、万博等を見据えた産学官連携・SDGsプロジェクトを実施した。 （エビデンス：修成教育研究所調査アンケート、産学官連携に関する台帳、教育課程編成委員会議事録	【課題】業界の技術革新のスピードが速く、教育内容の常時更新が必要。留学生・社会人等多様なニーズへの対応強化。 【改善策】外部意見をスピーディに反映し、教員のDX知見還元サイクルを確立する。
大項目2：教育課程、教育の実施、学修成果	1. カリキュラムとシラバスの実施状況	2	令和8年度からの単位制移行を見据え、全学科においてシラバスに沿った概ね計画通りの授業運営を実施。学科ごとにシラバスの再点検に着手した。 （エビデンス：令和7年度シラバス、基本情報公表資料）	【課題】授業担当者（特に非常勤講師）によってシラバス記載の授業外学修やねらいの表現に差がある。 【改善策】学科長を中心に学科内での再点検・フォーマット統一を行い、単位制に対応した質の平準化を図る。
	2. 成績評価と卒業認定	2	各科目においてシラバスに定めた基準に基づき適正に評価。卒業・進級判定会議を実施し客観的かつ厳格な判定を行った。 （エビデンス：成績評価基準、判定会議資料）	【課題】デザイン・実習科目における外部評価者の講評や評価観点を第三者へ公表・説明する資料が一部不足。 【改善策】講評会レジュメや観点別ルーブリックの整備を進め、成績評価の透明性と客観性を高める。
	3. 教育課程編成委員会の活用	2	建設業界の実務者・有識者を交えた委員会を年2回開催。BIM・施工DX・実務能力・マネジメント教育等に関して意見聴取を行った。 （エビデンス：教育課程編成委員会議事録）	【課題】委員会で提示された意見が、具体的に各科目や実習のどこに反映されたかの記録管理が十分でない。 【改善策】意見整理表・反映管理表を新たに導入し、委員会の意見とカリキュラム改訂の対応関係を明示する。
	4. 企業連携の実習と成果	3	建築総論Ⅰ（13社連携）、三和建設BIM演習、職人体験（スナダ建設・今西組・藤井組）、国交省インフラDX見学、各種PBL（0円庭園、タイル等）を実施。 （エビデンス：企業連携合意書、現場見学台帳）	【課題】見学・体験にとどまる授業もあり、事前学習および事後の振り返り・企業との継続的体制づくりに課題。 【改善策】振り返りシートや事前課題の共通導入を図るとともに、企業との協働に関する合意書締結等を推進する。
	5. 資格取得と就職の実績	2	修成教育研究所と連携した資格講座（二級建築士、1級・2級施工管理一次、積算士補、BIM検定等）を展開。約2,600社の求人を背景に高い就職率を維持。 （エビデンス：資格合格率一覧、進路決定状況表）	【課題】資格試験での日本人学生と留学生の語学力・学力層の差、受検意欲のばらつきが存在する。 【改善策】段階別支援・個別補講の強化とともに、事務局と連携した留学生向け資格・就職向上プログラムを複数年で展開。

大項目・担当	点検内容（中項目）	評価	令和7年度の取組実績とエビデンス	課題と次年度に向けた改善策（PDCA）
大項目3：学生の受入れ・学生支援	募集要項等での選考基準の明示、適正な定員管理と入学者選抜	3	学園ビジョンおよびAPに基づき募集活動を展開。オープンキャンパスやWebでの透明性の高い情報発信により、適正な入学者選抜を実施した。 (エビデンス：修成教育研究所ウェブサイト，令和7年度事業方針 ガツン2026)	【課題】18歳人口減少を見据え、高校生向け施策に加え社会人・留学生等多様な層へのアプローチ強化が必要。 【改善策】対象別募集戦術を確立し、大学併修やリカレント等の魅力を多角的に発信する。
	自主学習促進、留学生・障がい者支援、カウンセリング体制等の支援機能	3	事務局・学生相談室・学務室が連携し、留学生への生活・学習ガイダンスや配慮を要する学生への面談支援・合理的配慮を計画的に実施した。 (エビデンス：学生相談報告書2025年度)	【課題】学生の抱える悩み（心理・経済・学習面）の多様化・複雑化への迅速な組織対応。 【改善策】支援の「システム化」と「共有知」化を進め、教職協働によるシームレスな学生ケア体制を構築。
	企業連携によるインターンシップと就職支援	2	求人企業約2,600社のネットワークを活用し、1年生のインターンシップや合同企業説明会（オンライン）を実施。クラス担任と進路係の連携で高い進路決定率を維持。 （エビデンス：就職状況調査表 企業連携合意書 衣食住専門学校コンソーシアムOSAKA）	【課題】建設DX等最新業界スキルと学生の志望動機のミスマッチ防止、留学生の企業マッチング。 【改善策】就職ガイダンスの個別化・早期化を図り、留学生向け求人開拓と面接指導を一層強化する。
大項目4：教育実施組織・教員	法定要件を満たす教員配置と責任体制の構築	2	専修学校設置基準に基づき必要な専任・非常勤教員を適正配置。各学科に学科長・分野責任者を置き、組織的なカリキュラム運営体制を確保した。 (エビデンス：教員一覧、実務経験のある教員等による授業科目の一覧表、組織体制図、令和7年度事業方針資料、学園ビジョン策定資料 組織図)	【課題】学科別体制はあるが、産学官連携やSDGs等の横断的テーマにおける全学的責任体制の明確化。 【改善策】部署間・学科間の「横の連携」を密にし、全学プロジェクトを力強く牽引する体制を整える。
	年間を通じた教員研修（FD）計画と授業改善	2	令和7年度事業方針「『技術』と『熱意』」のもと、授業参観やICT活用研修等を実施。Google Workspaceを用いた授業手法の共有などを図った。 (エビデンス：教員会議、教員研修実施記録、授業アンケート実施方針・報告書)	【課題】個々の教員が得た実践的ノウハウが「個」に留まり、組織的な教職協働に昇華しきれていない点。 【改善策】「『個』の知恵を『和』の力へ」の基本方針に基づき、優良事例のデータベース化と相互研鑽を推進。
	実務家教員に対する最新専門知識・技術の維持・向上機会の提供	2	実務家教員を含む教員陣に対し、建設業界の技術革新に対応するため企業連携や外部研修への参加機会を提供した。 (エビデンス：外教員実務研修実績、企業連携講義実績)	【課題】外部研修等で得た教員個人の知識が他の教員へ十分に共有されず、学科全体の教育へ還元されにくい。 【改善策】研修報告会の定例化や学内知見共有プラットフォームの活用により「個」のスキルを「和」の力に変える。
大項目5：教育環境	必要な施設・設備等の確保、学校保健安全法に基づく計画・点検の実施	3	学校保健安全法に基づき、施設・設備点検、防災訓練、健康診断を計画通り実施。老朽箇所の修繕を計画的に進め、安全な教育環境を維持した。 (エビデンス：[2025年度]地震避難訓練実施要綱 定期点検報告書（建築物） 定期点検報告書（防火設備）)	【課題】校舎等の経年劣化に伴う維持管理コスト増加と、災害時事業継続（BCP）の実効性向上。 【改善策】長期的な施設整備計画（新校舎建設検討等）の推進と防災備蓄・BCP体制の再点検。

令和7年度 修成学園 自己点検・自己評価報告書【評価編】

大項目・担当	点検内容（中項目）	評価	令和7年度の取組実績とエビデンス	課題と次年度に向けた改善策（PDCA）
	最新技術（BIM・CAD等）設備の計画的導入	3	学生各自のPC所有（BYOD）を定着させ、BIM/CADソフトやGoogle Workspaceを活用する教育基盤を完備。電子黒板プロジェクター等の設備も更新した。 (エビデンス：教育課程編成委員会 2025年度01 教育課程編成委員会 2025年度02)	【課題】ソフトウェア更新に伴う運用コスト管理と、最新ツールを使いこなす教員指導力の差。 【改善策】教員向け操作研修の継続実施と、デジタルファブリケーション等の活用領域の拡大。
大項目6：基盤と改善の取組	中期事業計画の策定と安定的な財務基盤の確保	2	学園ビジョン『S Innovation 120・2030』に基づき事業を推進。適切な経費管理と学生確保により、事業活動収支の平衡を維持した。 (エビデンス：長期事業計画書、令和7年度事業報告書、令和7年度事業活動収支計算書、令和7年度事業方針（「技術」と「熱意」)	【課題】18歳人口減少や物価高騰が財務へ与える影響を見据えた、新たな収益基盤の構築。 【改善策】社会人向けリカレント講座（修成教育研究所）の受講生拡大と大学併修等の価値向上。
	自己点検・評価の実施とWeb等での公表	2	エンロールメントマネジメント（入口・中身・出口）の視点で自己点検を実施。評価結果および財務情報を学校Webサイト等で適正に公表した。 (エビデンス：自己点検・自己評価報告書（R6年度版）、公式ウェブサイト（情報公開ページ）、事業活動収支計算書（R7年度）)	【課題】点検結果の全教職員への更なる周知と、評価プロセスの簡素化・スマート化。 【改善策】デジタルツールを活用した点検数値の集約と、点検結果の迅速なフィードバック体制の構築。
	外部委員会（教育課程編成・学校関係者評価）への報告とPDCAへの反映	2	委員会を開催し自己点検結果を報告。実務的視点からの助言・意見を次年度の計画に反映させる体制を運用した。 (エビデンス：教育課程編成委員会議事録、学校関係者評価委員会報告書)	【課題】外部委員からの助言を各学科の日常授業へ迅速に落とし込む追跡体制の強化。 【改善策】委員会意見の対応状況を定期的に点検する体制を作り、PDCAサイクルを確実に回転させる。

参考：学科別 自己点検・評価結果（PDCA詳細）

全10学科における令和7年度の点検結果、取組実績・エビデンス、および課題と改善策（PDCA）の全詳細は以下の通りです。

(1) 建築学科（A科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： 令和8年度からの単位制移行を見据え、学科の目的・特徴に照らしたシラバスに沿って授業を行った。各科目の到達目標、授業回ごとの内容、成績評価方法等を明示したシラバスにおいて、計画通り授業を実施し、担当者間で進度を確認した。（エビデンス：令和7年度シラバス、職業実践専門課程基本情報公表資料）

課題と改善策（PDCA）： 授業運営は安定していたが、授業担当者によりシラバス記載内容（特に授業外学修の設定や到達目標の表現）にばらつきが見られた。令和8年度内に学科長を中心に記載内容を再点検し、単位制に対応した質の平準化を図る。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： シラバスに沿った評価方法により観点を総合的に勘案し、学内基準に基づき評価した。卒業設計（意匠設計コース）では提出物・プレゼン資料に評価観点を設定し、外部評価者を含む教員間で評価を実施した。判定会議を経て適正に卒業認定を行った。（エビデンス：令和7年度シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 成績評価は適正だが、卒業設計意匠設計コースにおける外部評価者参加の評価内容について、第三者へ公表できる資料整備まで及んでいない。令和8年度は講評会・評議会議レジュメ等を整備し、透明性と客観性を高める。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 実務者・有識者を含む委員会を年2回開催。BIM活用を含めた実務能力、施工計画能力、専門資格取得推進等の強化について意見聴取を行い、次年度の計画見直しの参考とした。（エビデンス：教育課程編成委員会 議事録）

課題と改善策（PDCA）： 委員会意見が各科目・実習のどこに反映されたかの記録が十分でなかった。令和8年度以降は、反映管理表や意見整理表を用いて対応関係を明確化する。

企業連携の実習と成果（評価：2）

取組実績・エビデンス： 建築総論Ⅰ（5月～6月）において13社の企業協力を得て、構造設計・設備・材料・内装等の講義を実施。学生が具体的なキャリアビジョンと学修計画を描く機会となった。（エビデンス：企業連携合意書、進路係共有企業選定シート）

課題と改善策（PDCA）： 大いに有効であったが、個別企業との事後の連携・協力体制づくりが課題となった。令和8年度以降は合意書を交わすなど、見える形での協力体制を構築する。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 建築積算士補対策として演習授業を開講し、2年生受検者約100名中半数近くが合格（合格率48.5%）。2級建築施工管理技術検定（一次前期）では2年生が健闘（合格率55%）。就職支援では卒業者98名中、進学49名（専科42名・大学5名他）、就職47名、その他2名と全員の進路がほぼ決定した。（エビデンス：資格試験合格率表、教育費負担軽減新制度申請書）

課題と改善策（PDCA）： 日本人学生と留学生の語学力差が資格試験・就職で課題となっている。令和8年度以降、事務局各係と連携し留学生の資格取得率・就職内定率向上に向けた複数年計画を立案・実施する。

(2) 建築デジタルデザイン学科（B科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年間授業計画に基づき各科目の授業を概ね計画通り実施。令和8年度からの単位制移行を見据え、到達目標、授業内容、成績評価方法、授業外学修の内容を改定した。（エビデンス：令和7年度シラバス、職業実践専門課程基本情報公表資料）

課題と改善策（PDCA）： 授業運営は順調だが、到達目標や評価方法の表現にばらつきが見られた。令和8年度は学科長を中心に事前点検を実施し記載水準を統一する。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 課題提出を総合的に勘案し適正に評価。CG演習では図面・プレゼン資料・口頭試問について評価観点を設定し教員間で確認。卒業判定会議を経て卒業認定を実施した。（エビデンス：令和7年度シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 演習科目における評価観点の明文化が一部不十分であった。令和8年度は評価方法を整備し、事前提示と教員間共有により透明性・客観性を向上させる。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 設計事務所・インテリア企業等の実務者を交えた委員会を年2回開催。BIM活用力・設計提案力等の強化に関する意見を受け、次年度計画の参考とした。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 委員会意見の反映先の記録が不十分だった。令和8年度は意見整理表を用いてカリキュラム改訂との対応関係を明確化する。

企業連携の実習と成果（評価：2）

取組実績・エビデンス： 令和7年7月、三和建設株式会社の協力によりBIMを用いた設計・内装提案の演習授業を実施。教員と企業担当者が共通の評価観点で専門知識・協働姿勢を評価した。

課題と改善策（PDCA）： 実習後の振り返り不足が課題。令和8年度は振り返りシート・事前学習課題を導入し個別成果確認を強化する。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： BIM利用技術者検定対策講座・模試を実施。1年次（BIM検定2級、福祉住環境3級、商業施設士補、パース検定2級）、2年次（インテリアプランナー、2級建築施工管理技士補）等の取得を支援し、就職指導を行った。

課題と改善策（PDCA）： 学生の学力差・進路意識差やデータ分析の不足が課題。令和8年度は段階別支援と個別指導を強化するとともに、取得率・就職率の相関データを可視化して対策講座や科目別試験対策を拡充し、2級合格率100%達成および1級受検・合格者の拡大を目指す。

(3) 空間デザイン学科（D科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： シラバスに沿って計画通り授業を実施。単位制移行に向けシラバスの再点検を実施した。（エビデンス：令和7年度シラバス）

課題と改善策（PDCA）： 授業外学修の提示内容に一部ばらつきが見られた。学科内でのフォーマット統一を進める。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： デザイン・インテリア課題等の成果物に対しルーブリック等に基づき評価し、判定会議を経て卒業認定を行った。（エビデンス：シラバス、判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 講評会における評価基準の事前開示を徹底し、成績評価の客観性をより高める。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 業界有識者を交えた委員会を年2回開催。空間デザインおよびインテリア提案力向上についての意見を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 助言内容のカリキュラム反映状況の記録を体系化・管理する。

企業連携の実習と成果（評価：2）

取組実績・エビデンス： 実践的空間デザイン・インテリア提案演習等で連携事業を実施。（エビデンス：授業関連資料）

課題と改善策（PDCA）： 事前指導と事後の振り返り作業を強化し、学びの定着を図る。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 二級建築士、インテリアプランナー、2級建築施工管理技士（一次）等の受験支援とポートフォリオ・面接指導を展開。（エビデンス：進路・資格集計表）

課題と改善策（PDCA）： 個別習熟度に応じた段階的補講を拡充し、資格合格率および志望企業への内定率を向上させる。

(4) 建築施工学科（R科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： シラバスに沿って施工実習および座学を計画通り実施。単位制対応のシラバス作成を進めた。（エビデンス：令和7年度シラバス）

課題と改善策（PDCA）： 施工管理技術検定の出題範囲と授業進度の整合性を再点検・調整する。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 試験・実習成果物・安全管理への取り組み等を総合評価し、適正に卒業認定を行った。（エビデンス：シラバス、判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 実習科目の評価ルーブリックを細分化し、教員間の評価基準を共有化する。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 施工会社等の実務者を交えた委員会を年2回開催。建築施工管理・施工DX技術の強化に関する意見を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 委員会で得られた提言を実習授業計画へ落とし込む対応表を作成する。

企業連携の実習と成果（評価：3）

取組実績・エビデンス： ゼネコンや専門工事企業との連携による施工実習・現場見学会を実施。（エビデンス：現場実習案内・報告書）

課題と改善策（PDCA）： 実習前の安全教育・事前知識学習の充実を図り、実習成果の最大化を目指す。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 2級建築施工管理技術検定（一次）の団体受検指導を展開し（33名申込等）、施工管理職を中心とした高い就職率を達成。（エビデンス：資格申込台帳、就職実績表）

課題と改善策（PDCA）： 早期からの模擬試験と個別分析を実施し、1次検定全員合格と施工業界への早期内定獲得を目指す。

(5) 土木工学科（C科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： シラバスに沿って授業を進め、演習強化のための座学統廃合を実行。単位制移行に向け新シラバス案を作成した。（エビデンス：令和7年度シラバス、理事会・評議委員会資料）

課題と改善策（PDCA）： 土木施工管理技士の出題内容と授業進捗に一部乖離があった。現行カリキュラムを見直し、一次検定合格を軸とした新カリキュラムと測量実習の強化を図る。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 試験、課題、実習成果物、授業態度を勘案し学内基準で評価。測量実習の評価観点を共有し、卒業判定会議を経て適正に認定した。（エビデンス：令和7年度シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 実習科目の評価観点の明文化に一部課題があった。評価方法を整備し、事前提示と共有により公正性を高める。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 建設業界の実務者を交えた委員会を年2回開催。1級・2級土木施工管理技士合格実績等を報告し、情報化施工や測量技術の強化に関する意見を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 意見の反映プロセスの記録を明確化するため、令和8年度は委員会意見とカリキュラム改訂の対応表を作成・管理する。

企業連携の実習と成果（評価：3）

取組実績・エビデンス： 令和7年5月、国土交通省（近畿技術事務所等）の協力によるインフラDX現場見学、19社参加の産学連携ワークショップ、アスファルト工場見学を実施。現場レポートで理解度を評価した。（エビデンス：現場見学会資料、ワークショップ日程表）

課題と改善策（PDCA）： 見学体験前後の事前学習・振り返りに課題が見られた。事前課題と振り返り授業を導入し、インフラDX知見を活かした品質管理授業を拡充する。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 1級土木施工管理技術検定（一次）にて合格率47.1%（全国平均43.1%）を達成。測量士補は35.3%となった。（エビデンス：1級土木合格集計表、測量士補結果、就職状況調査表）

課題と改善策（PDCA）： 測量士補において学力層による差が出た。建設エンジニア学科で成果を上げた個別指導ノウハウを共有し、早期抽出と段階別支援を展開する。

(6) 建設エンジニア学科（F科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： シラバスに沿って計画通り実施。CAT茨木教習所と連携した特別教育・技能講習（車両系建機、玉掛け、小型クレーン等）を組み込み実施した。（エビデンス：シラバス、CAT茨木講習日程表）

課題と改善策（PDCA）： 土木施工管理技士の出題内容と授業進度の一部乖離を補正し、一次検定合格を軸とした授業展開と現場演習の強化を行う。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 試験・課題・実習成果に加え、CAT茨木での実技技能習得状況を教員・外部講師の視点で評価し、適正に卒業認定を行った。（エビデンス：シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 実習科目の評価観点を明文化し、事前提示と教員間共有を徹底する。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年2回開催。在学中の重機・安全各種資格取得の取り組みが評価され、情報化施工や測量技術強化の助言を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 反映管理表を用いて、委員会意見と教習所講習・カリキュラム改訂の対応関係を明確化する。

企業連携の実習と成果（評価：3）

取組実績・エビデンス： CAT茨木での実機講習および国交省インフラDX現場見学会を実施。教員と外部指導者が共通観点で操作正確性・安全意識を評価した。（エビデンス：見学会資料、シラバス）

課題と改善策（PDCA）： 重機操作スキルとインフラDXの知見を関連付けた事前・事後学習課題を拡充する。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 「測量士補」で2年生受検者全員合格、「2級土木（後期）」で1年生全員合格を達成。1級土木は20.0%となった。（エビデンス：資格取得集計表、就職状況調査表）

課題と改善策（PDCA）： 1年次の成功ノウハウ（個別指導）を2年次対策にも横展開し、2年生の資格取得率向上を図る。

(7) ガーデンデザイン学科（G科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： 新カリキュラム1年目を概ね計画通り実施。新シラバスの内容確認を行った。（エビデンス：シラバス、授業アンケート評価）

課題と改善策（PDCA）： 座学での集中力維持や自己管理に課題が見られた。科目間連携を強化し、座学と実習の繋がりを明示する。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 試験・課題・実習成果物（図面等）・出席状況を勘案し、学内規程に則り適正に評価・認定した。（エビデンス：シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 非常勤講師を含む教員間での評価基準の平準化と事前提示を継続徹底する。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年2回開催。「3級造園技能士全員合格」「2級造園施工管理（一次）合格率62.5%」、イズミヤ福町店PBLの実績を報告し高評価を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 委員からの「施工計画や予算管理を含む建設マネジメントの理解」の提案を受け、設計と施工を連動させた演習を強化する。

企業連携の実習と成果（評価：3）

取組実績・エビデンス： H2O商業開発協力のもと、イズミヤ福町店での壁面緑化PBL（現地調査・提案・施工）を実施。教員と企業担当者が共同評価を行った。（エビデンス：壁面緑化プロジェクト資料）

課題と改善策（PDCA）： 学生の役割分担の偏りを防ぎ、主体的な工程管理（PDCA）を実行できる指導を強化する。

資格取得と就職の実績（評価：3）

取組実績・エビデンス： 3級造園技能士で20名中19名合格、2級造園施工管理（一次）で16名中10名合格。20名中19名の進路決定を達成した。（エビデンス：合格率月次表、就職状況調査表）

課題と改善策（PDCA）： 技能士試験の要素試験（葉・樹皮等の識別）での知識定着を図るとともに、夏季実技対策での熱中症対策環境を整備する。

(8) 建築・デザイン学科(夜) / 建築学科(夜)（N科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年間計画に基づき概ね計画通り実施。令和8年度からの単位制移行、およびGoogle Meetへのシステム移行説明会の準備を進めた。（エビデンス：令和7・8年度シラバス、非常勤連絡会資料）

課題と改善策（PDCA）： ハイフレックス授業（対面・オンライン融合）における授業資料の配布時期や資料作成方法を改善し、質の向上を図る。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 試験・課題・実習成果物・出席を勘案し評価。実習科目では教員間で評価のばらつきを防ぐ確認を行い、判定会議で適正に認定した。（エビデンス：シラバス、進級卒業判定資料）

課題と改善策（PDCA）： 設計演習・情報処理演習での学生間の能力差に対応した目標設定と評価方法の工夫を行う。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年2回開催。一連の建設マネジメントの重要性について意見を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 「建設マネジメント」の視点を授業（N1・N2）や資格対策でより詳しく反映・強化する。

企業連携の実習と成果（評価：2）

取組実績・エビデンス： スナダ建設（職人体験）、今西組・藤井組（鉄骨建方・墨出し・鉄筋組立・型枠）との実習授業を実施。教員と企業が共通観点で評価を行った。またDOORDO、飛行船スタイル、DAISHO等の協力を得た。（エビデンス：実習スケジュール、アンケート等）

課題と改善策（PDCA）： 施工体験実習は高評価であったが、一部の企業講義で事前打ち合わせが不足した。打ち合わせの徹底と時間配分の調整を行う。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 夏季集中講義で2級施工管理（一次）4名、宅建士1名合格。その他、技術士補、測量士補、福祉住環境2級、カラーコーディネーター、BIM2級、1級施工管理（一次）、消防設備士甲種等に多数合格。就職決定率97.2%を達成した。（エビデンス：就職状況調査表）

課題と改善策（PDCA）： 2級・1級施工管理技士、宅建士の受検者数増加と合格率向上を図り、個別面談を通じた進路支援を徹底する。

(9) 専科2級建築士科（E科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： シラバスに沿って計画通り実施。受講生アンケートで高い評価を獲得した。（エビデンス：シラバス、授業アンケート）

課題と改善策（PDCA）： テキスト読解力や暗記力の個人差が課題。習熟度に合わせた教材見直しと個別指導を徹底する。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 模擬試験、宿題、設計製図課題、出席状況を総合勘案し厳格に評価・認定を行った。（エビデンス：シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 客観的で透明性の高い評価を徹底し、教員間の指導・評価の一貫性を維持する。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年2回の委員会提言に基づき、スキルアップ授業や現場実践的な技術指導を強化した。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 現場で要求される「設計と施工の連動」に対応した実践的演習をさらに拡充する。

企業連携の実習と成果（評価：3）

取組実績・エビデンス： 令和7年12月、株式会社安井建築設計事務所協力のもと「琵琶湖文化会館（隈研吾氏設計）」の現場見学会を実施。レポート提出により成果を評価した。

課題と改善策（PDCA）： 非常に高い学習意欲が得られた。今後も著名建築の現場視察を継続し、座学と実務の結びつきを深める。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 二級建築士学科試験で41名中37名合格、製図試験で28名中21名合格。就職決定率100%を達成。（エビデンス：合格率集計表、就職状況調査表）

課題と改善策（PDCA）： 学科試験で基準点まであと1点（足切り）の不合格者が5名生じた。弱点分野の徹底分析と専用演習問題による個別指導を強化する。

(10) 専科1級建築士科（H科）

カリキュラムとシラバスの実施状況（評価：2）

取組実績・エビデンス： 演習重点のカリキュラムにより資格合格の得点力を向上。単位制移行に向けた準備を進めた。（エビデンス：令和7年度シラバス）

課題と改善策（PDCA）： 個別事情による途中参加・遅延学生へのサポートを強化し、一人も取り残さない運用スケジュールを構築する。

成績評価と卒業認定（評価：2）

取組実績・エビデンス： 模試・提出課題・出席等を勘案し評価。製図科目では共通採点表を作成・活用した。（エビデンス：シラバス、卒業進級判定会議資料）

課題と改善策（PDCA）： 学科科目間の評価基準の平準化を検討し、評価の客観性と透明性を向上させる。

教育課程編成委員会の活用（評価：2）

取組実績・エビデンス： 年2回開催。1級建築士試験の合格状況を報告し、資格指導全般の助言を得た。（エビデンス：教育課程編成委員会議事録）

課題と改善策（PDCA）： 全学科共通の委員会時間枠を超え、専科に特化したより深い議論の場を設ける。

企業連携の実習と成果（評価：3）

取組実績・エビデンス： 指導力のある実務家ベテラン教員・企業協力講師陣が担当。実務力習得とロールモデル提示を実現した。（エビデンス：令和7年度シラバス）

課題と改善策（PDCA）： 一級建築士に必要な高度な知識と実務力をより一層高いレベルで習得できるようカリキュラムを精査する。

資格取得と就職の実績（評価：2）

取組実績・エビデンス： 一級建築士学科試験で23名中15名合格（合格率65.2%）、設計製図試験で15名中4名合格（合格率26.7%）、就職率100%を達成。（エビデンス：建築技術教育普及センター合格発表、学内集計）

課題と改善策（PDCA）： 製図試験の合格率向上が最重要課題。基礎学力向上、講師・教材の再構築、エスキスおよび作図スピード指導を根本的に強化する。